

2 (4) 実践事例 (B校第4学年)

単元全7時間の指導の実際は、こちらから⇒ [click](#)

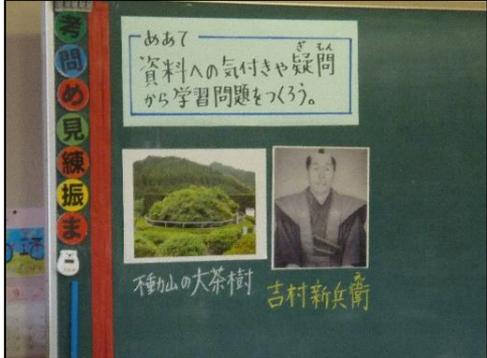
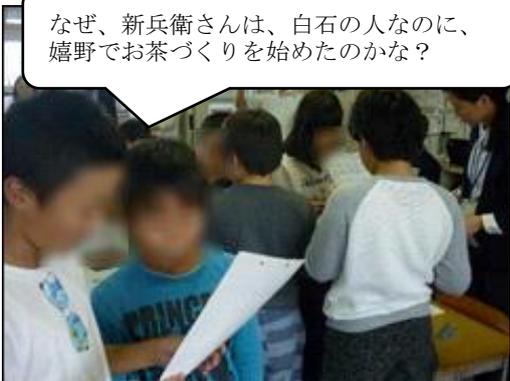
児童の問題意識を高めながら、気付きや疑問を基に単元の学習問題を設定する実践【課題把握の場面】

(第2時/全7時間)

本時の目標

吉村新兵衛に関する資料や写真への気付きや疑問を持ち、学習問題を考え、表現することができるようにする。 【社会的な思考・判断・表現】

本時の授業の様子 ※写真資料は、著作権及び肖像権に配慮し、処理しています。

学 習 活 動	教師の働き掛け(○)、質的改善を図った手立て ([])
<p>1 嬉野茶の体験を振り返り、嬉野茶の感想を交流する。 〈全体〉 〈全体〉</p>  <p>嬉野茶は、農林水産大臣賞というすごい賞をもらっています。</p> <p>すごいね!!</p>	<p>○おいしい嬉野茶の入れ方を学んだことを振り返り、嬉野茶の受賞歴等、生産量や売り上げ等の資料を示し、嬉野茶のすばらしさや凄さを全体で再確認させた。</p> <p>○昔の茶畑の様子や大茶樹の写真を見せ、吉村新兵衛に注目させた。</p> 
<p>2 本時のめあてをつかむ。</p> <p>めあて 資料への気付きや疑問から学習問題をつくろう。</p>	
<p>3 吉村新兵衛に関する資料や写真を通して気付いたことや疑問に思ったことを書いて、話し合う。 〈個人→グループ→学級全体〉</p>  <p>なぜ、新兵衛さんは、白石の人なのに、嬉野でお茶づくりを始めたのかな？</p>	<p>○新聞記事や写真を少しずつ提示して発問をするなど、児童の興味関心を高めるようにした。 [A②]</p> <p>○児童の疑問や予想に対して「本当にそうなの?」「違うかもしれないよ」など、問い返したり、揺さぶったりした。</p>  <p>嬉野市長さんは、何に頭を下げているのでしょうか?</p> <p>何が隠れているの?</p> <p>偉い人がいるのかな?</p> <p>○「吉村新兵衛さん祭り」の新聞記事や写真への気付き(!)や疑問(?)をワークシートに書かせ、グループで交流した後、全体で話し合い、考えを共有させた。 [A③]</p>

僕は、山や荒地地で作物が育ちにくいところで、どのようにしてお茶づくりをしたのか、疑問に思いました。



児童の発言

【時代】

(!) 1600年～1675年の人。→昔の人。
(!) 約400年前。→お茶の木ない。
山や荒地地。米や作物が育たない。

【お茶づくり】

(?) 佐賀の白石町の武士なのはどうして嬉野の不動山なのか。
(?) なぜお茶づくりをはじめたのか。
(?) どうして武士なのにお茶づくりなのか。

【感謝】

(?) どうして新茶のお茶摘みの前なのか。
(!) 谷口市長がいる。
(!) 100人→たくさん→感謝されている。

【思い】

(?) どんな思いでお茶づくりをはじめたのだろうか。
(?) どんな苦労があったのだろうか。

○児童の発言を、4つの観点に分けて黒板に整理した。また、学習問題を考えやすいように、気付きを(!)、疑問を(?)で示した。[A④]

○気付きや疑問を発表させ、それに対する予想を問い返しながら考えさせた。

○児童の気付きや疑問を意識的に分けて板書し、児童にどんな観点でまとめられるかを考えさせながら「時代」「お茶づくり」「感謝」「思い」に分けた。[A④]



【観点ごとに板書で整理している様子】

4 気付きや疑問を基に学習問題をつくる。
〈個人→学級全体〉

○「時代」「お茶づくり」「感謝」「思い」の観点を意識させ、学習問題を考えさせた。

吉村新兵衛は、どのような思いで、どのようにしてお茶づくりをしたのだろうか。(学習問題)

5 本時の振り返りをし、次時の学習内容を知る。
〈個人→学級全体〉

○本時の振り返りをさせ、次回から学習問題解決のために、4つの観点について調べていくことを確認した。



本時の最終的な板書

本時の成果と課題（○成果、●課題）

- (1) 柱1 「本時に取り入れた手立て及び意識したことは、児童の『主体的・対話的で深い学び』につながっていたか。」
- 学習問題を最初から学級全体で考えるのではなく、一旦個人で考えてから全体で共有していったことは、「自分の問題」として捉えさせることにも有効でした。
 - 資料を少しずつ提示したり、一部を隠したりするなど工夫がされていたので、児童の興味・関心を高めることに効果的だったと思います。また、配布資料を読み、情報を読み取る際の視点にもつながっていました。
 - 児童の発言に対し、「どうしてそう思うの?」と問い返すことで、調べる意欲を高めていたと考えます。
 - 対話活動の意図が個人の考えに自信を持たせることにありましたが、ワークシートに記述したことを「伝え合う」だけで良かったのかどうか、対話活動の意図が児童に伝わっていたのか疑問が残りました。児童の実態に合わせて、対話活動の目的を少しずつ変えていく必要があります。
- (2) 柱2 「本時に取り入れた手立て及び意識していたことは、児童の資質・能力の育成につながっていたか。」
- 「資料を見て、気付いたこと、疑問に思ったことに線を引きましょう」の指示で、ほとんどの児童が戸惑うことなく、線を引くことができていました。曖昧な指示のようにも思えましたが、情報を読み取る目的が明確になっていたことが良かったのだと思います。授業初めに提示した資料を基に、全体で読み取りを進めた活動が効果的に機能していたと考えます。
 - 本時の授業では、問題意識を高めるためだけでなく、単元を通して調べたり考えたりする内容を把握する効果もありました。調べる活動においても、学習問題を意識させること、学習問題をつくった本時のことを振り返らせることも必要であると考えます。
- (3) 柱3 「授業の質的改善に至るまでの方法（手順）は、適切だったか（手引きの見直し）。」
- 課題把握（動機付け）の過程に焦点を当てました。本時の授業で取り入れた「資料の一部を隠す」「資料を少しずつ提示する」などの手立てが、「主体的な学び」の視点から効果的と判断されたため、A②の手立てを追加することができました。